

<学会レポート>

第48回日本医事法学会総会

丸山 英二（慶應義塾大学）

第48回日本医事法学会総会は、2018年11月17日（土）～18日（日）に慶應義塾大学三田キャンパス西校舎で開催された。以下、その内容を紹介するが、叙述の繁簡宜しきを得ていない点、あらかじめお詫びしておきたい。

初日の11月17日には、午後、ワークショップⅠ、Ⅱが開催された。ワークショップⅠ「臓器移植医療の過去・現在・未来」では、「企画趣旨説明」（神馬幸一・獨協大学）、「二十歳を過ぎた臓器移植法を振り返る」（旗手俊彦・札幌医科大学）、「意思表示方式の現状と法的課題」（宍戸圭介・岡山商科大学）、「意思の尊重が可能な社会に向けての経営学的戦略」（瓜生原葉子・同志社大学）の報告が、ワークショップⅡ「医事法学のアイデンティティを求めて——インフォームド・コンセントを手がかりに」では、「30周年大会のシンポジウム記録から」（宇都木伸・東海大学名誉教授）、「インフォームド・コンセント論の意義と限界」（平林勝政・國學院大学名誉教授）、「遺伝子診断」（佐藤雄一郎・東京学芸大学）、「高齢者の医療と同意」（岩志和一郎・早稲田大学）の報告があり、その後、フロアとの討論がもたれた。ワークショップⅠについては、移植医療に対する一定の評価が前提とならざるを得ないところがあり、議論の難しさが痛感された。ワークショップⅡについては、唄孝一博士の薫陶を受けた報告者による含蓄豊かな報告と各自の思いの丈を語るフロアからの多数の発言が筆者には印象的であった。もっとも、そのような背景に直接接していない参加者にとってはどのように映ったものか懸念されるところがなくはない。また、司会者および報告者の時間厳守は模範的であったが、そのあまり報告が尻切れトンボに終わり、討論との接続が十分得られなかった点が惜しまれた。なお、本ワークショップⅡは、今年の第49回研究大会において予定されている「医事法学のアイデンティティその2：医療事故を手掛かりに（仮）」を経て、第50回記念大会におけるシンポジウムにつなげることが予定されている。

ワークショップのあと、会場を南校舎2階ザ・カフェテリアAに移して、懇親会が開かれた。今回の大会は、大会長の古川俊治教授（慶應義塾大学大学院法務研究科）および実行委員長の磯部哲教授（同）の周到な準備と手配のもと、開催校の関係者のご支援を得て文字通りの盛会となった。古川大会長のウィットに富んだ挨拶で始まった懇親会においても、参加者は行き届いた配慮と心尽しのご馳走をはさんで新たな出会いを得、旧交を温め、歓談を楽しんだ。

翌11月18日は、9時からの総会で始まった。報告事項のあと、編集委員会報告、会計報告、予算案の提案などの議題について、説明後、了承された。また、2019年11月16～17日に九州大学馬出キャンパスで開かれる予定の第49回大会について案内された。

9時40分からの個別報告では、A会場で、「周術期口腔機能管理における歯科衛生士が行う口腔清掃についての医事法学的考察——看護師が行う場合との比較を交えて」（柴野荘一・東京医

療保健大学)、「日本の医療分野の賠償訴訟にみられる積極的司法とその後退——近年の医療事故調査制度創設と司法の相互作用も念頭において」(畑中綾子・日本学術振興会特別研究員)、B会場で、「外国人診療の法律関係に関する課題と対策」(大西達夫・MLIP 経営法律事務所)、「<医療とAI>より良いガバナンス構築に向けて——フランスにおける近年の議論を参考に」(小川有希子・慶應義塾大学大学院)の報告と質疑が行われた。

個別報告のあと、プレランチセミナー「医学研究に関する法令・指針をめぐる最近の動き」(丸山英二・慶應義塾大学)では、人対象医学系研究倫理指針、ヒトゲノム・遺伝子解析研究倫理指針、臨床研究法、再生医療法など医学研究に関する法令・指針についての解説の後、フロアとの活発な質疑と意見交換がなされた。

昼食休憩をはさんで13時からは、シンポジウム「医療情報のフロンティア」が開かれ、下記の報告と総合討論(司会:吉峯耕平・田辺総合法律事務所)が行われた。

1. 企画趣旨(磯部哲・慶應義塾大学)
2. 個人情報保護とプライバシー——医事法と情報法の架橋のために(宍戸常寿・東京大学)
3. 医療関連情報に関する近年の個人情報保護施策(板倉陽一郎・理研 AIP、国立情報学研究所)
4. 医療連携と医療情報活用の現場で感じる法的制約(大江和彦・東京大学)
5. 医療情報に関する法制度上の課題(米村滋人・東京大学)
6. 指定発言(山本龍彦・慶應義塾大学、藤田卓仙・慶應義塾大学)

各報告は各々興味深いものであったが、筆者には板倉報告が個人情報保護法2015年改正や次世代医療基盤法の背景、施行状況等に関して、大江報告が医療情報連携の現状と法的課題に関して、それぞれ内容豊かで教えられるところが多かった。